

2011年4月28日

マツダ株式会社

2011年3 月期通期決算説明会

主な質疑応答

**Q: 震災による影響と今後の復旧見通しについて教えて欲しい。**

A: 生産台数で約4万6千台、出荷台数で約1万台の影響となり、財務インパクトとしては営業利益ベースで約50億円の機会損失となりました。また操業停止に伴う工場の労務費や償却費など主に未生産分の固定費49億円を特別損失として計上しています。このほかに、連結販売会社の建物被害と車両被害などが3億円ありました。

復旧までの見通しですが、4月13日より連続操業を開始し、稼働率は5から7割まで回復することができました。5～6月は稼働率7～8割程度を目指します。国内外の生産正常化タイミングは、下期を見込んでいます。全世界のお客様に一刻も早く、車両やサービスパーツをお届けするために、本格安定生産に向けグループを挙げて取り組んでまいります。

**Q: SKYACTIV TECHNOLOGY 第一弾のデミオ導入は今年前半と聞いていたが、震災影響で販売開始が遅れる可能性はあるか教えて欲しい。**

A: 若干の遅れはあるものの、当初の計画通り今年前半の導入を予定しています。なお具体的な日程につきましては、適切な時期が来ればご案内させていただきます。

**Q: 2012年3月期の通期見通しはいつ発表するのか。また「中長期施策の枠組み」の見直しはあるのか。**

A: 現在、お取引先様と一体となって本格生産再開に向けた取り組みを行っておりますが、2012年3月期については、震災影響の見極めが非常に困難な状況です。今後、予想が可能となった段階で速やかに公表させていただきます。

また「中長期施策の枠組み」につきましては、設定した時点から大きな外部環境の変化があったことを認識しています。一時的な震災による影響のほか、枠組み発表時点から円高も長期化しています。また未参入新興市場への参入検討などにも着手しており、今後状況に応じ見直しを行い、もし公表すべきと判断した場合には、速やかに公表させていただきます。